

一般演題口演 | 一般演題：令和6年能登半島地震関連

■ 2024年7月19日(金) 10:50 ~ 11:45 第9会場(宝山ホール 2階 第3会議室)

[O24] 令和6年能登半島地震関連③

座長:山田 浩二郎(みさと健和病院 内科)、高須 修(久留米大学医学部 救急医学講座)

11:04 ~ 11:11

[O24-03] 第5ターム重装JMAT派遣報告

*磯崎 千尋¹、三浦 邦久²、渡部 晋一¹、長橋 和希¹、石原 哲²、山本 保博² (1. 東京曳舟病院 救急救命士課、2. 東京曳舟病院 診療部)

「背景」令和6年1月1日に能登半島で発生した地震は、過去の震度7と比較しても東日本大震災に次ぐマグニチュード7.6の大地震となった。当院では、AMAT1回・DMAT1回・JMAT4回（重装3回、標準1回）の派遣を行った。本発表では、第5ターム重装JMAT派遣の活動報告を行う。「方法/結果」活動期間：2月17日～20日 重装JMATは自己完結型のため、非常食や寝袋などを救急車内に積載した。そのため医師・看護師は金沢駅で集合とし、ロジ3名が病院救急車で金沢入りを行った（片道約500km）。医療ニーズの充足に伴い、活動は北部医療圏から金沢以南となり、装備の充実性から避難者数の多い加賀地区の支援となった。

「考察」 加賀地区の避難者数は2千人を超える、保健師チームを中心となり支援を行っていた。避難所は42カ所あり、COVID-19やインフルエンザが散発していた。原因として、一般宿泊客と避難所が兼任している・罹患者の食事/入浴など区別できていないなどがあった。

「結論」 当チームは亜急性期の活動であり、診察した患者数は15名で、その殆どが軽症であった。これら活動報告は病院内で周知し、後進育成に活用していく。